

# 史跡 二階堂政貞屋敷跡 地福寺 二階堂氏ゆかりの寺 地福寺

## 二階堂政貞屋敷跡（町指定重要文化財）

二階堂氏は鎌倉幕府の重職を務め、鎌倉の永福寺の近くに屋敷があったので、二階堂と称しました。建暦（1213）年、幕府の有力御家人の間で発生した和田合戦を鎮圧した恩賞として、一族の二階堂行村は大井荘内（現大井町域）などに所領を得ました。

二階堂政貞がこの地に来て屋敷を構えたのは明徳の頃（1390～1394年）と言われています。『新編相模国風土記稿』によれば、地福寺の開基の政貞が篠窪に屋敷を構えたし、「政貞宅跡」を「東西三十間（約54m）、南北二十八間（約50m）」と記しています。屋敷跡と伝えられている平坦な台地は北から東にかけて中村川の段丘崖、南側は高低差が大きい斜面、西側には山から続く尾根を遮断する堀（現在は道路）を造るなど、外敵からの防御を考えた構造となっています。



屋敷跡 南側の急斜面



臨済宗建長寺派宝珠山 地福寺



二階堂出羽守政貞の墓

寺の真向かいにある了全山の頂には、政貞の墓があり、篠窪地区を見守っているようにも見える。

## 地福寺

宝珠山地福寺は、臨済宗建長寺派の寺院です。開山は貞和3年（1347年）中和等陸で、開基は二階堂政貞です。

二階堂氏や地福寺について書かれた『新編相模国風土記稿』によれば、「二階堂氏の祖は隠岐守行村と云い、建保元（1213）年、和田義盛謀反せし時、これを討つて功労ある故に大井の庄をあてがわれた。この頃より二階堂氏伝領して政貞に至り、その後篠窪を屋号とする」とあります。建保元年（1213）年、鎌倉幕府の勢力が源氏から北条氏へと移り変わる時代です。

大井の庄を給与された行村は、鎌倉幕府草創の時から源頼朝の側近のひとりとして幕府に参画した、二階堂山城守行政の二男といわれています。その後、大井の庄の領地の大部分は、霜月騒動（1285年）で幕府に没収されますが、篠窪地区は二階堂氏が伝領し、政貞に引き継がれました。子孫は篠窪を姓として小田原北条氏に仕えたとのことです。

地福寺は、豊かな自然の中で長い間、篠窪を見つめてきた二階堂家ゆかりの寺なのです。

